



# 令和6年度北アルプストレイルプログラム 飛騨側実証実験概要について

令和6年5月29日(水)  
中部山岳国立公園管理事務所



# 実証実験概要 (Webサイト)

■ 実施時期：令和6年7月13日（土）～10月31日（木）

## Webサイトによる情報発信

### ● トップページ (各県共通)



### ● 第2階層 (各県ごとの取組紹介・協力金収受)



- 登山道整備等の写真の提供について協力依頼
- 開設後webサイトのリンク貼付けについて協力依頼

# 実証実験概要（広報媒体）

■ 実施時期：令和6年7月13日（土）～10月31日（木）

以下の媒体による情報発信

- 看板、ポスター、ラミネート、カードの4種類を提出・配布

表

裏

## 北アルプストレイルプログラム

### 登山道維持のための協力金にご協力ください

Our mountain trails to the future

北アルプストレイルプログラムとは

中部山岳国立公園を訪れる登山者が安全に登山を楽しむためには、登山道の維持が欠かせません。しかし、行政や山小屋（公園事業者）を中心とする地域関係者だけで登山道等を維持し続けていく仕組みは限界にきています。実際に登山道を利用する登山者の皆様にも協力いただき、登山道等の維持に「参加」できるプログラムを開始しました。私たちと一緒に登山道を未来に繋ぎませんか。

参加方法の1つとして、登山道維持協力金へのご協力をお願いします。

北アルプス開群登山道等維持連絡協議会

## 登山道維持協力金の使い道

登山道の維持

北アルプスには無数かつ長距離の登山道が存在しています。高部地域の東奥側の登山道は、行政機関や山小屋から成る北アルプス開群登山道等維持連絡協議会が中心となって維持していますが、大雨等の自然災害による登山道の増加や作業の人手不足など社会環境の変化により、これまでの体制による登山道維持が年々難しくなっています。今後も利用者の皆さまに登山道を安全に利用していただくため、登山道維持に協力金を活用しています。

道標の設置

北アルプス開群登山道等維持連絡協議会では、皆さまが自己責任のもと、安全に登山をしていただけるよう、登山道標識と普及啓発案内板の補修、新規設置を進めています。

## 登山道維持協力金のお支払い

実施期間 2024年7月12日(金)～10月31日(木)

金額 1回の登山につき「500円/日」として、ご希望の回数にてご協力をお願いします。  
(注意) 経路標識に係る書籍の発行は、未対応となります。ご了承ください。

お支払い方法 次の3つのいずれかをご選択ください。(注) 向年度以降、支払い方法が拡充する可能性があります。

- 1 協力金取受箱への現金支払い  
対象エリアの各山小屋に協力金取受箱を設置しておりますので、直接現金を入れてお支払いいただけます。
- 2 銀行振込  
銀行窓口、ATM、インターネットバンキングよりお振込ください。  
※ 振込先：高部産業信用組合  
店 名：高部支店(高部支店055)  
口座種別：普通  
口座番号：0312376  
※ 宛 先：北アルプス開群登山道等維持連絡協議会  
※ 振込先：北アルプス開群登山道等維持連絡協議会  
〒247-0201 長野県上田市高部町高部1-1-1
- 3 クレジットカード決済(オンライン)  
決済QRサイト準備中

協力金取受付場所

- 〓 新穂高登山指導センター
- 〓 新穂高ロープウェイ西穂高口
- 〓 笠ヶ岳山荘
- 〓 西穂山荘
- 〓 穂ヶ岳山荘
- 〓 穂ヶ岳山荘
- 〓 南岳小屋
- 〓 植平小屋
- 〓 焼岳小屋
- 〓 穂高平避難小屋

(注意) 営業時間内の受付となります。

ラミネート

▶ 山小屋



看板

▶ 登山口



ポスター

▶ 平湯バスターミナル



カード

▶ 山小屋  
▶ 調査員による手渡し配布



# 実証実験概要（看板設置）

## 【看板設置場所】

- ①登山指導センター
- ②左俣入口
- ③右俣入口
- ④新穂高ロープウェイ西穂高口
- ⑤鍋平高原(鍋平～登山指導センターへの歩道入口)
- ⑥鍋平登山者用駐車場
- ⑦新穂高第3駐車場(深山荘前)
- ⑧ひがくの湯
- ⑨中尾高原口
- ⑩焼岳登山者用駐車場



- ⑤⑥については集約
- 飛越新道登山口（北ノ俣岳、黒部五郎岳方面）を追加

- 利用者アンケートの実施

利用者の意向把握調査と解析を行い、制度の有効性の検討等を行う。実施方法はWebとする。

- 利用実態調査、解析

当該地を訪れる利用者の動向を把握するためのモニタリング調査と解析を実施。実証実験期間中に3箇所程度の登山口においてカウンターを用いた調査を行い、2日間（1日当たり2人で実施することを想定）、現地での直接カウントによりカウンターの精度把握を実施。また、長野県側との登山者数の比較を行い、県境の稜線に係る登山者数の比率についての定義も含め検討。現地調査時は広報媒体の配布も行う。

- 意見交換会の実施

実証実験終了後、結果について報告。協力金の使途について検討。次年度以降の実施方針について策定する。（12月、2月を想定）



# 整備優先順位の明確化

- 利用者の多い保全に緊急性を要する箇所に優先的に使用する
- 継続維持できる負担の少ない確実性のある労働力体制を確立する  
→ヒアリング調査で明確化する
- 行政の手が追いつかない箇所のグレードアップを図る  
→あくまで一般の方からいただく協力金なので、行政がやるべき箇所は行った上でそれでも足りない箇所に使う
- 使用用途の透明性を確保する
- 利用状況、保全対策状況を踏まえ、各路線の整備・維持管理の方針を検討する
- 併せて、関係機関とも協議の上、優先的に対応を行う路線を検討する（優先順位付け）
- なお各路線の現況については、次年度以降も引き続き、協議会での情報共有などを通じて情報を更新・充実しながら、必要に応じてランクも見直し

## <整備・維持管理方針のとりまとめイメージ>

No	種別	公園計画番号	公園事業名	起点	終点	執行状況	執行者	清掃・点検 刈払い等の 主な実施者	施設・自然環境の保全上の問題点		利用 状況	利用体験 ランク	保全対策 ランク	整備 方針	維持管理 方針	優先 順位
									施設・登山道の問題点	周辺自然環境の問題点						
1	歩道	1				未執行	なし		小	特記なし	小	3	D			
2	歩道	2				未執行	なし		小	吾妻屋旅館から天元台高原駅は笹が深く、岩の露出や泥濘が見られる 木道の劣化が散見される	小	3	D			
3	歩道	2				未執行	なし		小	特記なし	大	2	D			
4		2							小	特記なし						
5	歩道	3							小	特記なし						
6	歩道	4				執行		なし	大	登山口までの林道が重度の洗掘により一般車両では実質通行不可のため、登山口まで約8kmの徒	小	4	B			

現況についても協議会での情報共有を通じて、更新・充実し、必要に応じてランクも見直し

現況やランクをもとに整備・維持管理方針を立案

# 維持管理の労働力の確保

- 継続維持できる負担の少ない確実性のある労働力体制を確立する  
→座学等の研修で担い手を確保する
- 負担を減らすためには出来るだけ民間企業を活用していくことが望ましい。
- 行政から山小屋に依頼するだけでなく第三者が介入できる体制を整えるべき  
→維持管理に関して外注可能な部分は外注にする
- 関係者の負担を明らかにする
- 登山者への情報発信、点検等作業の効率化の観点から、登山道の状況や作業の実施状況等については、情報共有や連携が望ましい
- 協議会にて、会員が実施する登山道・探勝路に関する主な取組内容と結果を報告（会員より報告・共有）

山小屋、行政、関係者へのヒアリング調査を実施し、整備の優先順位の明確化、確実な労働力の確保への解決方法を明確化する必要がある。

## <情報収集・とりまとめのイメージ>

No	種別	公園計画番号	公園事業名	起点	終点	執行状況	執行者	清掃・点検刈払い等の主な実施者	施設・自然環境の保全上の問題点		令和5年度作業実施状況	令和6年度作業実施状況
									施設・登山道の問題点	周辺自然環境の問題点		
1	歩道	1				未執行	なし		小 特記なし	小 特記なし		
2	歩道	2				未執行	なし		小 旅館から天元台高原駅は笹が深く、岩の露出や泥濘が見られる	小 特記なし		
3	歩道	2				状況に変化が生じた場合は記載内容を修正	なし		小 木道の劣化が散見される	小 特記なし		
4		2				未執行	なし		中 木道の老朽化が進行しているため、転倒の恐れあり	小 特記なし		
5	歩道	3				未執行	なし		小 特記なし	小 特記なし		

点検等を実施した区間に主な実施内容を記載

## 座学・実施研修（長野県事例）

### 座学

登山道の歴史、登山道維持の現状／目的／整備内容

### 実地研修

- ①一般利用者向け：歩荷体験、道具の紹介、施工現場の解説、施工体験（軽微な石組み、土留め）
- ②山岳関係者向け：施工時の考え方、ポイントの解説、実地研修（石組み、土留め）





# <参考事例> ボランティアツアー

- <取組名> 池ヶ原湿原ヨシ刈りツアー  
<主催者> YAMAP・池ヶ原湿原自然保護センターほか  
<場所> 池ヶ原湿原(岐阜県 飛騨市)  
<概要> 湿原本来の植生回復を目的としたヨシ刈りボランティアを主な活動としつつ、飛騨の人との交流、食、街歩きなどをパッケージ化した1泊2日のツアー企画

## <特徴>

- ・「池ヶ原湿原の課題に対し、超楽しく取り組む！」などといった思いを込めて、開催
- ・ヨシ刈り活動が基本であるが、ツアー中には「自然のなかでの演奏会」、「地元の方による薬草カレーの提供」、「コテージでの宿泊」、「街歩きツアー」など様々なコンテンツが用意され、誰でも楽しみながら参加ができる。
- ・ツアーの最後には振り返り会を開催し、魅力や問題認識を再確認してもらい、継続的に関わりを持ちたい気持ちを想起させ、ファン化を図る取組を実践

[写真出典] <https://yamap.com/magazine/38041>





**中部山岳国立公園**

Chubusangaku National Park